

送出セルモノナランカト考ヘラル。

## 第七章 大正二年一月ノ小活動及ビ

### 其後ノ狀況

三三 一、月、活、動、概、況、 今回ノ小活動ハ一月十四日ヨリ次第ニ始リ、十八九日頃ニハ既ニ孔底ノ粗ボ中央ニ當リテ一小火丘ヲ作り盛ニ鎔岩ヲ噴出シタリ、初發ヨリ十日間ヲ經テ同月二十五日ヲ以テ終結シ翌二十六日ニハ既ニ靜穩ニ歸シタリ(第三十六圖)要スルニ第二期噴火即チ前年九月十月ノ大活動ノ餘響ニシテ、其ノ際噴出セル孔底多量ノ鎔岩層ガ著ルシク陥落セルニ伴ヒタル變動ニシテ、第一期噴火即チ明治四十五年三月四月大活動ノ餘響トシテ同年七月下旬ニ發セル陷落、噴火ノ變動ト全ク其ノ趣キヲ一ニセリ、此ノ小破裂ハ第一期噴火ヨリ約三ヶ月後ニ發セシガ、今回ノ變動モ亦タ第二期噴火ヨリ約三ヶ月後ニ起リタリ。

次ニ錄スルハ調査ノ爲メ大島ニ出張セシメタル本會助手加藤常次郎ノ報告(摘要)ナリ。

今回ノ活動ニ就キテ清水大島元村村長ノ談話ニヨルニ今回ノ活動ハ一月十四日ヨリ遠雷ノ如キ鳴動ヲ起シ元村ニ於テモ盛ンニ戸障子ヲ振動セシムルニ至リ四、五日ヲ經テ鎔岩

ノ噴出ヲ始メタルガ如シ、十九日ニ登山視察セル際ニハ孔底ノ殆ド中央部ニ當ル新火孔ヨリ鎔岩ヲ盛ンニ噴出シ居タルガ、噴出ノ模様ハ一回毎ニ先ヅ地下ニテ猛烈ナル鳴響ヲ起シ須臾ニシテ火孔ヨリ眞紅ノ鎔岩ニ黑色ノ岩塊ヲ交ヘテ五、六百尺モ高ク噴キ上グルモノニシテ其音響ハ第一期以降數次ノ三原山活動ノ場合ヨリモ非常ニ強クシテ火孔壁上ニ於テ普通ノ音響ニテハ談話スル事能ハザル程ナリキ、且ツ孔壁上ニ於ケル震動頗ル強カリシカバ思ハズ後透リスル程ナリキ、其後二十四日頃迄ハ元村ヨリ望見スルニ夜ニ入りテ時々山頂ニ夕陽ノ如キ反照ヲ爲シ居ルヲ認メタリ、二十五日ニ小學校生徒等ガ登山セシトキモ尙ホ噴火ハ繼續シ居リタリト云フ。

然ルニ二十六日午後一時頃余ガ登山セシ時ハ噴火ハ全ク鎮靜シ、地動モ殆ンド感ズル所ナシ、唯ダ坑内大森山(第二期岩屑丘)ヲ中心トシテ孔底ガ約十五米陷落シテ段違ヒヲ生ジ其上段ノ縁邊ニ於テ噴烟盛ンナルノミナリキ。

三三 大、正、二、年、九、月、ニ、於、ケ、ル、狀、況、 大正二年九月二十三日乃至二十六日ニ大島噴火孔ヲ視察セルガ、其狀況ハ同年五月ニ於ケルト大差ナシ、即チ第二期岩屑丘(大森山)内側ノ缺陷、鎔岩「迫持」隧道ノ存在、「ナウマン」丘及ビ第一期岩屑丘(中村山)ノ

第三十六圖 伊豆大島三原山ノ噴火 孔底ヲ孔壁南部ヨリ望ム

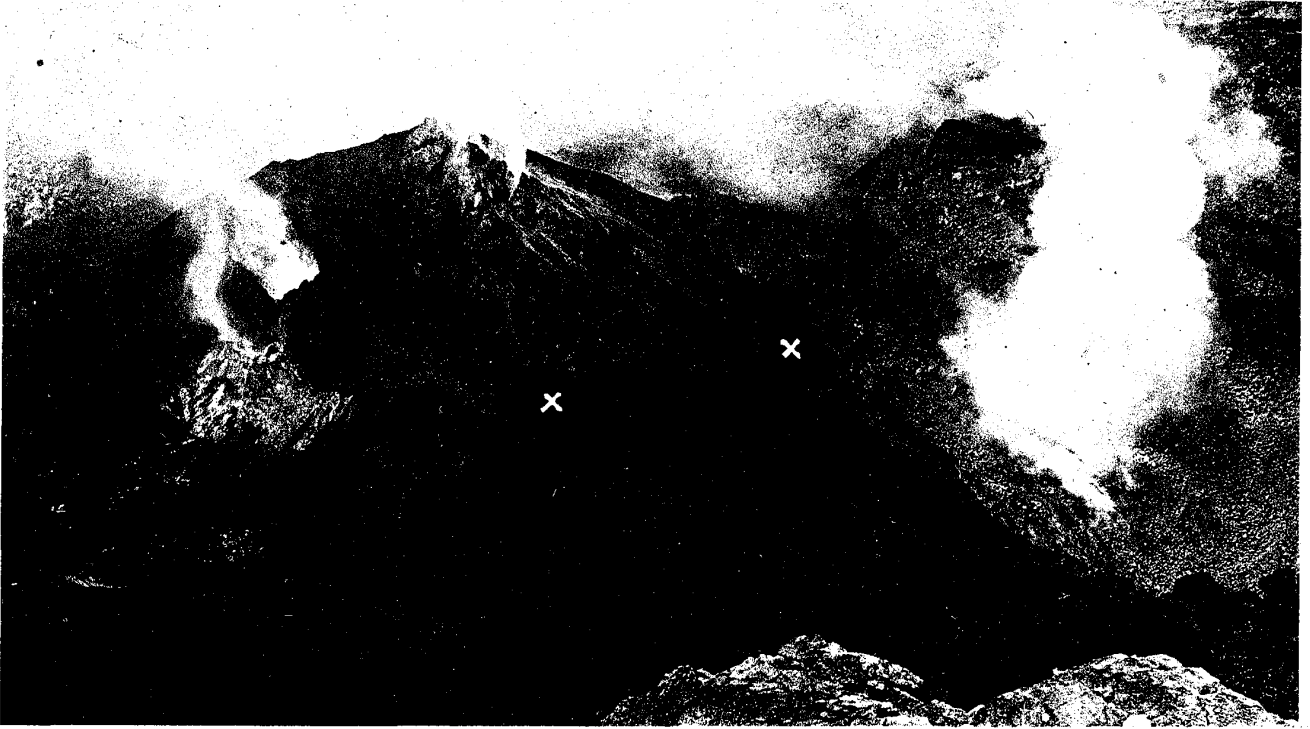


左方ノ高丘ハ第二期岩層正ニシテ其ノ左側麓ナル(X)ハ第一期岩層ノ殘頭ナリ

(大正二年二月二十八日加藤常次郎撮影)

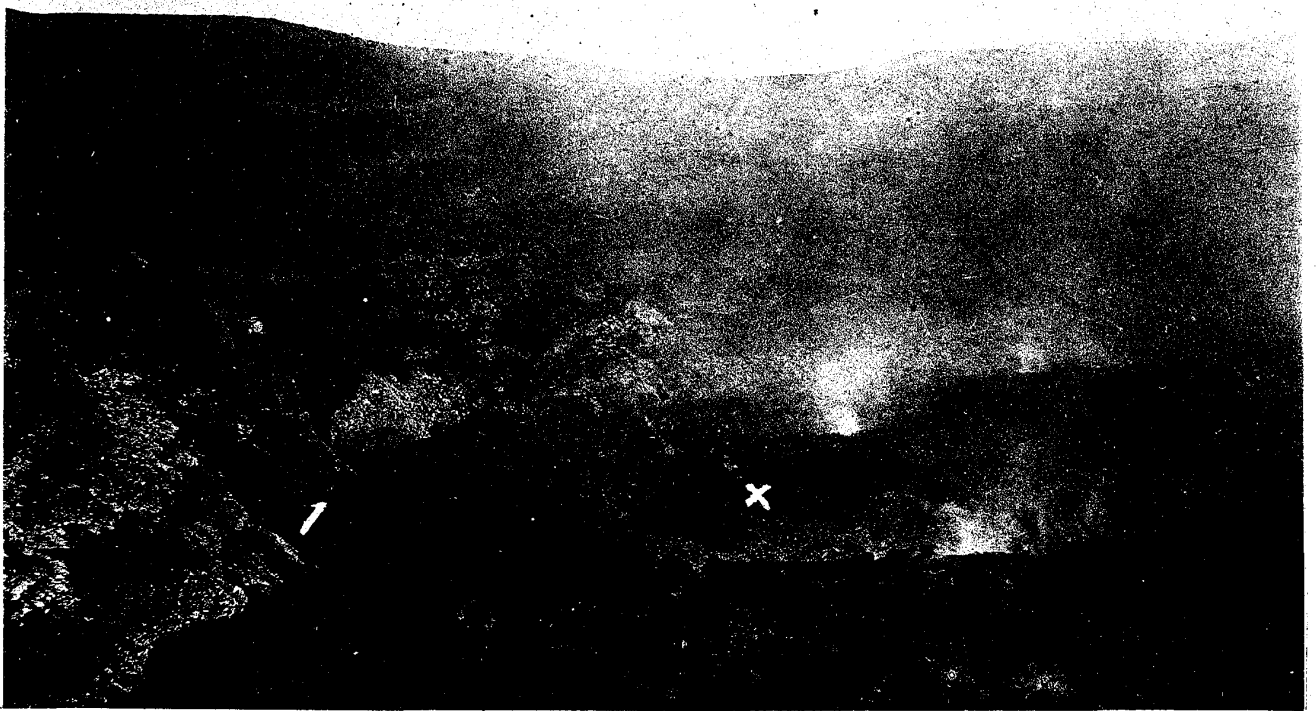
伊豆大島三原山第二期噴火後ノ狀況

(大正二年五月六日大森撮影)



第三十七圖 第二期岩屑丘三原山南壁側ヨリ望ム

(××)以下右側ハ深ク陥落境界ニシテ、左ノ方ハ白煙ノ突如ノ噴キヨリ吹き出サズ



第三十八圖 第三期底孔ヲ北壁側川尻ヨリ望ム

(1)ハ岩層上ニシテ、其テシニ左ノ手ニボタチモ岩リ、(×)ハ陥落境界ニシテ、附近ニ岩窟アリ

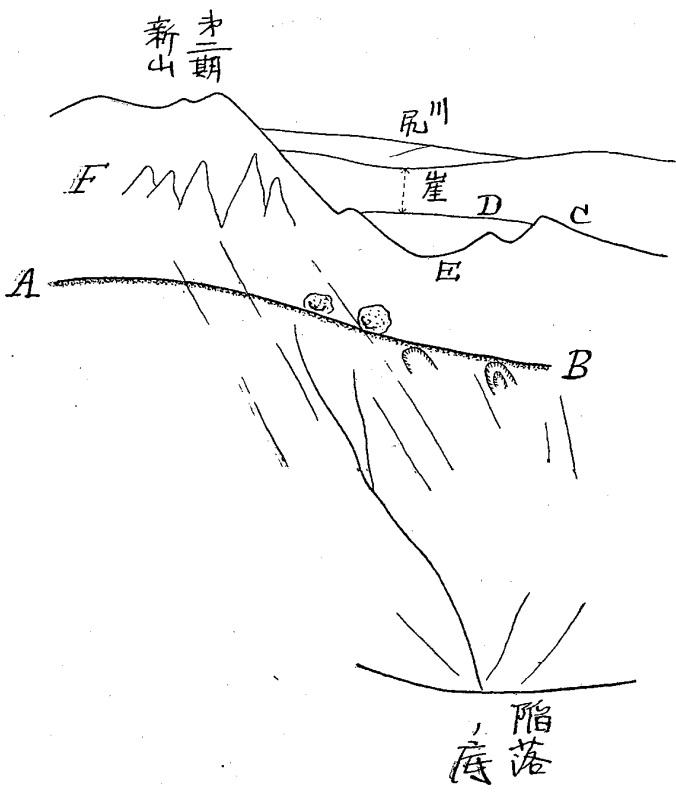
殘頂等皆ナ變化無キモ唯ダ第二期岩層丘南東ノ大陷落區域ノ深サハ嘗テ三原噴孔底ニ流出セル鎔岩層面ヨリ以下約二百尺ナリシガ今回見タル所ニテハ更ニ深サ百尺ヲ増シ約三百尺トナリタリ。此ノ陷落區域ハ第二期岩層丘ノ南東側ヨリ前時ノ「ナウマン」丘ノ馬蹄形兩翼壁ニ跨リ、第二期岩層丘ヲ半缺ケトセルモノニシテ、其ノ底心ハ殆ド噴火前(即チ四十二年頃)ノ火口ノ深底ト一致シ若クハ相隣接セルナラント考ヘラル。

「ナウマン」丘ノ頂點ガ噴孔底ニ流出セル鎔岩層上面ヨリ挺出スルハ僅ニ約十一尺トナリ、同丘ノ背後、即チ噴孔壁ニ向ヘル側ハ幅五間程鎔岩流出帶ヲ以テ島ノ如ク圍繞セラレタリ、「ナウマン」丘頂點ト噴孔壁トノ水平距離ハ約十間ナリ。第一期岩層丘ノ頂點ハ「ナウマン」丘頂點ヨリモ尙ホ七尺高カリキ。陷落區域ノ内側及ビ深底ヨリハ一モ噴烟スル所ナシ、然ルニ第二期岩層丘ノ内側ニハ半折セル烟突ノ如キ狀ヲナセル二個ノ噴口及ビ數多ノ小突角峙立シテ盛ニ烟ヲ吐キ出ダセリ、陷落區域ノ北方境界ハ殆ド一直線ヲナシテ十字岩ヨリ第二期岩層丘ノ南側ヲ横リ、牡丹餅岩ニ向ヘリ、而シテ此ノ境界線ヨリ北方ノ鎔岩層ハ數個ノ竝行線ニ沿フテ裂罅ヲ生ジ多少ノ陷落ヲ以テ段階ヲ成シ、白烟ヲ吐キ出ダスモノ多カリシガ、前記大陷落區域ノ南方ニハ烟ヲ立ツル個所無カリキ、陷落區域ノ南側境

界、即チ陷落面ニ沿フテ約十個ノ「迫持」及ビ「隧道」ヲ露出シアリタリ。

- 第一期新山(中村山)頂ヨリ望ム
- (C)ハ大正二年一月ノ噴火丘 (AB)以上赤赭若クハ黃白色ノ岩塊露出ス
- (D)ハ孔底周圍ノ鎔岩層上面
- (E)ハ陷落セル鎔岩面

第三十九圖



(AB)以下ハ暗黒色ノ岩層傾斜面ニシテ大岩塊ノ露出ナシ

第一期新山(中村山)頂ヨリ望ムニ第二期新山南東側面ニハ(第三十七圖、三十九圖)赤色及ビ白黃色ノ小岩峰峙立スルモ、其ノ下部即チ陷落面ハ深底迄一様ニ消シ炭ノ如キ暗黒色ナル岩層

ヲ以テ覆ハレ大ナル岩塊ノ存在ハ更ニナシ、而シテ上下兩部  
間ノ境界線(AB)ハ一見細キ道路ノ如クナルモ實ハ第三十九圖  
ノ如ク下方ガ少シク入り込ミ、上方ガ却ツテ庇ノ如ク出デタ  
ルモノニシテ、要スルニ(AB)ハ前時ノ「ナウマン」丘ノ側壁ニ  
相當シ、茲ニ新丘ノ山根ヲ露出セルモノナランカ。

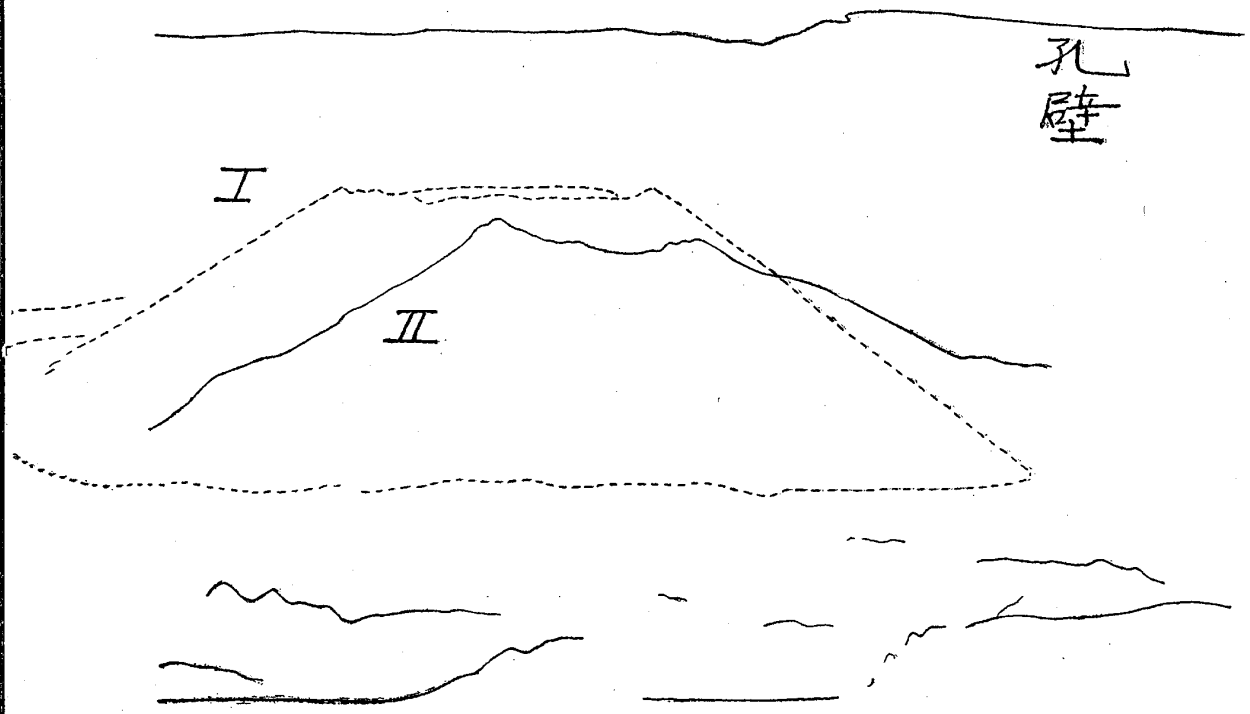
九月二十四日ニ實見セルニ噴孔底各所ヨリ出ヅル煙ハ線香ノ  
烟ノ如ク、フワリ／＼トシ、勢能ク射出スルハ皆無ナリ、而シ  
テ此ノ煙ハ不透明ニシテ蒼白色ヲ帶ビ、天空ニ飛揚スルモ普通  
ノ雲トハナラズ、淺間山等ノ噴煙ガ多量ノ水蒸汽ヲ混ズルノ  
結果空際ニ上騰スレバ雲ト同様ニナリ終ルトハ大ニ趣キヲ異  
ニセリ、蓋シ三原噴火ガ爆發的ナラザル所以ニシテ其ノ噴煙  
ガ水蒸汽ヲ含有スルコト少ナキ爲ナルベシ。

本日午前十一時三十五分頃第二期新丘頂ニ立テル際ニ時々微  
震ヲ感ジタリ、前日モ午前十一時三十分頃同山頂ニテ繼續時  
間約五六秒ナル一回ノ微震ヲ感ジタルガ、噴孔底下ハ尙ホ振  
動ヲ絶タザリシモノト見ユ。

噴孔底十字岩脈附近ヨリ第二期岩層丘西側ニ亘リテ流出セル  
鎔岩ハ大體赭赤色ニシテ繩ヲ竝ベタルガ如ク、若クハ荆棘ヲ横  
ニ束ネ流ガセルガ如キ狀ヲナシ、不規則ナル角立テル岩塊或  
ハ鐵糞狀トナレルモノハ無カリキ、蓋シ本年一月小活動ノ際、

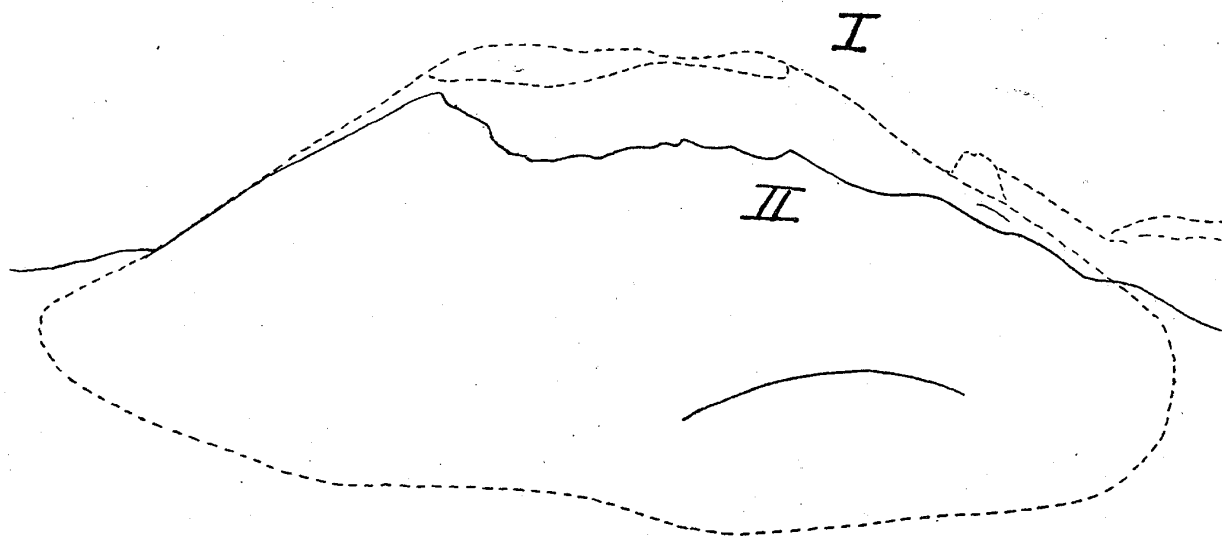
△望リヨ方北ヲ丘層岩期二第

圖十四第



狀形ルケ於ニ日三十月十年元正大ハ(I)  
狀形ルケ於ニ月五年二正大ハ(II)

シ同ト圖十四第ハ義意ノ(II)ト(I)



靜ニ岩漿ヲ  
 流出セル結  
 果ニシテ、  
 此等ガ少シ  
 ク時ヲ經テ  
 浸蝕作用ヲ  
 受クレバ、  
 現時ニ於ケ  
 ル三原山頂  
 大噴火孔壁  
 ノ西方縁ニ  
 附著存在セ  
 ル安永鎔岩  
 ノ如クナル  
 ベキナリ。  
 第二最高點  
 下ニ至レバ  
 鎔岩層ノ裂  
 罅中尙ホ熱  
 キ個所モア

リキ。

**三四 岩屑丘ノ變形** 第一期第二期岩屑丘ハ噴孔底鎔岩層  
 陷落ノ爲メ忽チ其ノ形狀ヲ毀損セラレタリ、殊ニ第二期岩屑  
 丘ハ其ノ變化甚シク第三十圖ニ示ス正整ノ圓錐形(大正元年  
 十月三十日撮影)ハ翌大正二年五月ニ至リテ既ニ第三十一圖  
 ノ如クニナレリ、此等ノ兩圖ハ共ニ三原大噴火壁ノ北部川尻  
 ナル同一個所ヨリ望見セルモノニシテ其ノ形狀ノ相違ハ第四  
 十圖ノ如シ、第三十二圖竝ニ第三十三圖ハ同様ナル關係ヲ示  
 スモノニシテ共ニ噴孔壁西南部第二最高點附近ヨリ取りタル  
 撮影ナリ、形狀ノ相違ハ第四十一圖ノ如シ。要スルニ新岩屑丘  
 ハ其ノ一部ガ崩壞セルト共ニ他方ノ丘腹ニ著シク膨脹セルヲ  
 見ルベシ。

### 第八章 大正三年五月第三期噴火

**三五 噴火ノ經過** 第三期噴火ハ大正三年五月十五日夜半ヨ  
 リ始マリ十六日、十七日、十八日ニハ活動最モ盛ヲ極メシガ十  
 九日夜ヨリハ火勢モ減退シ二十一日頃ヨリハ連續的噴火ヲ止  
 メ一日中ニ數回多少爆發的ニ噴出スルコト、ナレリ、而シテ  
 十七十八日夜ハ破裂ノ火光ニテ元村ニテモ薄明ルキコト新月  
 ノ光程ナリシト云フ、又汽船豆相丸ハ十七日波浮港ニ碇泊シ